

珊瑚舎スコーレが 珊瑚舎スコーレで

あるために

個の尊重と協同の調和を
求め続けること

授業を
思索と表現と交流の場として
つくり続けること

そして

自由と 自立と 平和を
求める人々の集う場で
あり続けること

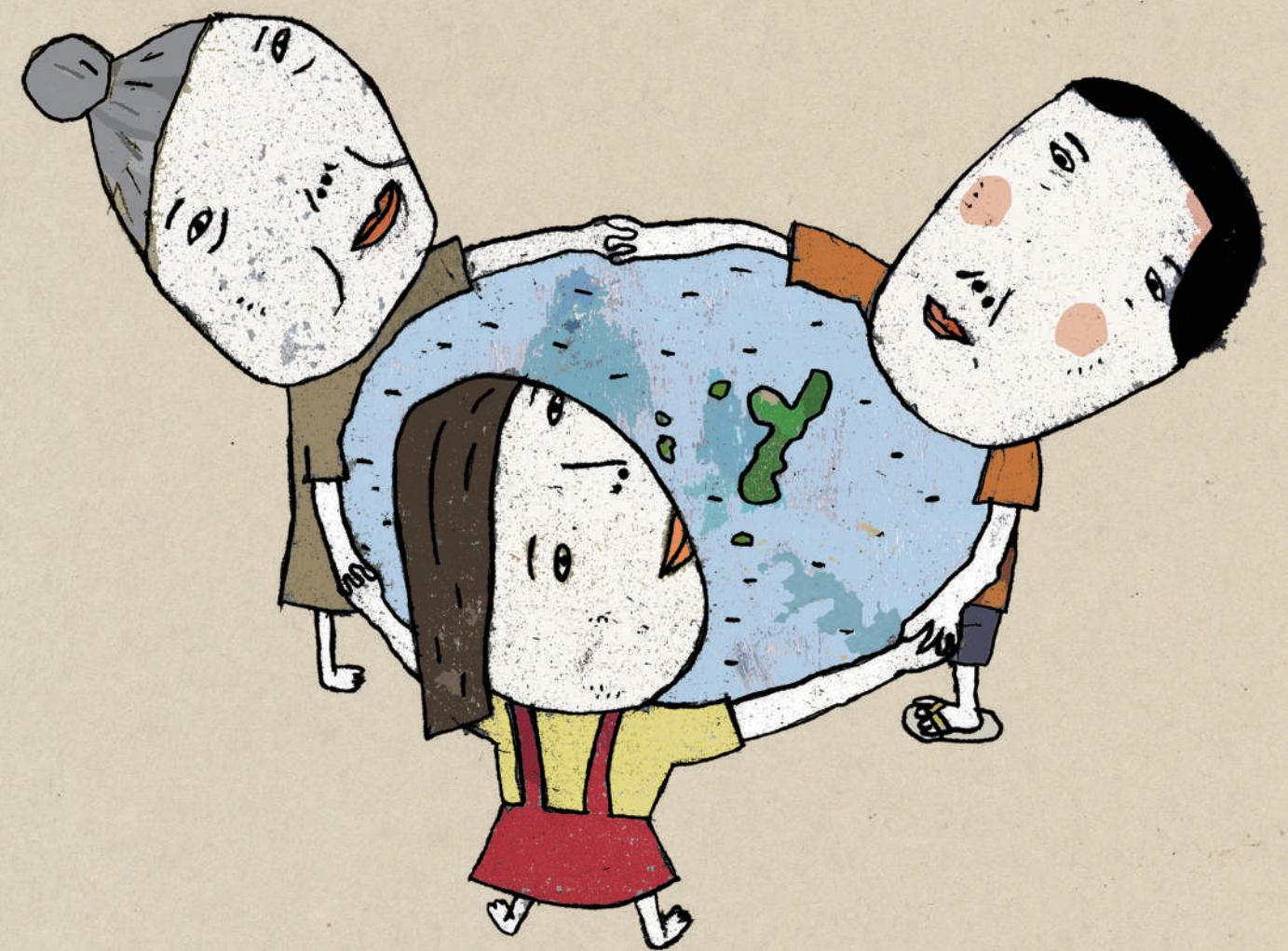
珊瑚舎スコーレは公開の原則の下、活動します



〒901-1414
沖縄県南城市佐敷津波古509-4
TEL 098-975-7781
FAX 098-975-7783
Mail info@sangosya.com
HP <https://sangosya.com>
9:00～18:00
(土日祝日 及び 春期・夏期・冬期閉校日休業)
入学申込書はHPからダウンロードできます



キッズスコーレ・初等部・中等部・高等部・夜間中学校



教室は教員が知識や技術を伝達するためにあるではありません
クラスメイト同士がお互いをサポートし合い共に成長するためにあるのです
教員はその手助けをするために教室にいるのです

生徒一人一人が授業を あるいは学校そのものを「思索と表現と交流の場」としてつくるための手助けをすることが学校の役割です
それが生徒一人一人の成長につながります

授業にも 学校にも
そして自分自身にも完成はありません
珊瑚舎スコーレはいつも呼びかけています

授業をつくろう！
学校をつくろう！
自分をつくろう！

珊瑚舎スコーレは
それを手助けするためにあります

学校をつくろう！

人は「自分を創る」生きもの。
その手助けをするのが学校です。

学校教育の中核は授業です。私たちのつくる学校は児童・生徒・学生が「授業」とおして「自分を創る」ための手助けをする場としてあります。授業という言い古されたことばの中に、学校の大きな可能性があると考えています。

あらかじめ用意された知識や技術を身につけることを目的とした授業ではなく、生徒・教材・教員の三者の交流から生まれる力を育むことを目標とした授業がそれを可能にします。

珊瑚舎スコーレはそのような学校をつくらうとする「学びの同行者」が集う場でありたいと思っています。そこから生まれる創造性ある状況を私たちは学校文化と言っています。人に備わった成長と変容のドラマが生まれる舞台としての学校です。

「自分を創る」ということ、
それは「自分の言葉を獲得する」こと。

一人前として周りから認められるのに、人間ほど時間がかかる生き物はいません。長い時間をかけて人は育ちます。生涯育ちつづける生き物と言ってもいいほどです。どんな体験をし、何を感じ、何を考え、どう体を動かし、人や世の中や自然、そしてどう自分と向かい合ったかで、その人の生き方、物の見方の基盤となる価値や思想の萌芽のようなものが形になってきます。自分自身や社会、あるいは諸々の現象や状況に内実と輪郭を与えようとする営みが「自分を創る」ということです。それは「自分の言葉を獲得する」ことです。人間の成長や変容は自分の言葉の獲得と共にあるのです。

珊瑚舎スコーレの教育は、日常生活では体験できない、ほかの価値には置きかえることのできない「体験としての学び」を通して自由と自立、そして平和を求める意思を手に入れるための手助けをすることです。それは学校文化をつくり続ける営みなのです。



森の校舎

・キッズスコーレ

（はべる組（4、5歳児）
あけづ組（小1～3年）

2025年9月校舎完成予定

MAP



海の校舎

- ・初等部（小4～6年）
- ・中等部（中1～3年）
- ・高等部（中卒以上）
- ・夜間中学校



キッズスコール
はべる組
4・5歳児

のびやかに金とあそぶ



海からの風が吹き抜ける「森の校舎」で、幼児クラス「はべる組」をスタートします。身体と五感をめいっぱい使ったのびのび遊べる環境です。子どもが生来持つ好奇心を発揮できる主体的な遊びの時間は、学びの土台になります。

はべる組では、お互いが安心して自分をひらくことのできる場を子どもたちとともに作ります。自分の気持ちや伝えたいことを皆に聴いてもらうのと同時に、皆の気持ちや伝えたいことにも耳を傾けることを大切にすることで、対話的な空間が育まれます。話すこと以外にも、描く、つくる、歌うなど、さまざまなやり方で“わたし”を表しながら「自分のことば」を獲得することを目指していきます。



はべるタイム

大人が何をして遊ぶのかを決めるのではなく、自分たちで遊びをつくりだす時間です。好奇心や興味関心のあることに没頭できる主体的な遊びの時間は、あけづ組の学びにもつながっていきます。



リズムとからだ

幼児期には特に、皮膚や筋肉関節の感覚をたくさん使うことが、身体機能や脳の発達につながります。リズムや音楽にあわせて意識的にからだを動かして遊びます。



てしごとのじかん

草木や毛糸など自然素材のものを中心に扱い、手先を使ったものづくりをします。アイデアを形にすること、表現することを楽しみます。



描くじかん

絵本や遊びで感じたことを、自由に表現する時間です。子どもたちの内側から湧き出てくるものを大切にします。

キッズスコール
あけづ組
小学校
1～3年

遊ぶことは学ぶこと!

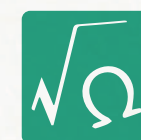


子ども時代を「消費者」ではなく「創造者」としてすごしてほしい！大人がお膳立てした遊びを消費するのではなく、自分たちで遊びをつくりだす。遊びは学びに、学びは遊びになります。自分たちの場を自分たちの手でつくる営みを大切にしたいと考えています。



ことば(日本語)

母語(親語)としての日本語の世界を広げ、深める時間です。生徒が書いた一行の文章でも音読と推敲の大切さを意識して授業をつくります。



数と記号

記号化する面白さや、答えが違ったときの「まちがい」をみんなで大切にします。自分なりの答えを見つけた道のりを、互いに共有します。



アートタイム

自分の感性や想像力に形を与える時間です。さまざまな道具を使って、自分の好奇心を広げます。



スコーレタイム

生徒がそれぞれ決めたことに取り組む時間です。計算や漢字、授業でやったことの続きなど、やりたいことをスタッフと相談して決めています。

《 その他の授業 》

ことば(英語)

うちな一口

からだの時間

シンカ会議※

※ シンカとは沖縄のことばで「仲間」という意味。

初等部

小学校
4～6年

自由のびのび等身大！



子ども時代は人間形成のためのベースとなる感受性や思考力、想像力、表現力を養う大切な時期です。また、自立心や協調性など社会や他者との関わりの中で自分という存在の輪郭を自分でつくるための準備をする重要な時期でもあります。そのような力を子どもたちが「自由のびのび等身大」で身につけられるよう手助けをすることが初等部の役割であると考えています。



ことば(日本語)

母語(親語)としての日本語の世界を広げ、深める時間です。文章を「読む」こと、文章を「書く」こと、朗読などに重点を置きます。



道具と手仕事

手の延長である道具を使いこなすことは大切なことです。大工道具(金槌、鋸など)、裁縫道具(糸、針、ハサミなど)、包丁などを扱います。



自然の営み

私たちの身の回りは好奇心を刺激する事実や現象にあふれています。観察力、思考力、想像力を養う宝庫です。



からだの時間

からだ自体、あるいはからだの姿勢や動きに意識的になることは自分づくりの基本の一つです。からだを使った遊びをします。

《 その他の授業 》

ことば(英語)

うちな一口

アクト&ドラマ

数と記号

人間の営み

英会話 (英語というツールでコミュニケーションの幅を広げます。)

アートタイム

スコーレタイム(話し合いで生徒たちが授業内容を決め、共に学ぶ時間です。)

シンカソング

シンカ会議

※ シンカとは沖縄のことばで「仲間」という意味。

中等部

中学校
1～3年

自分づくりへの旅立ち
仲間と共にでかけよう！



10代前半からの十年間ほど、とりわけ自尊心や自立心が強くなり始めます。人間形成のためのベースとなる感受性や思考力、想像力、表現力を養う大切な時期です。そのためには他者との交流の中で学ぶことが大切です。学校は「思索と表現と交流の場」です。生徒たちが自分の力で自分をゆっくりと育てるための手助けをする場です。クラスメイト同士がお互いを認め合い、お互いの力を引き出しながら喜びと痛みを分かち合う「心の解放の場」としての学校をつくりたいと考えています。



人間の営み

歴史や地理、日常生活の中の出来事など、人の営みを切り口に、未来の自分と社会を考えるための時間です。



うちな一口(沖縄語)

土地に根づいたことばを学ぶことは文化を学ぶことです。日常会話を通してうちな一口のリズムを楽しみ、表現を学びます。



数と記号

数や記号を読み、書き、考えることは、日常生活で使っていることばの世界とは別の考え方や想像力を養います。



英語

外国語のなかのひとつである英語を学び、親しむことを通して、異文化や平和について考え、自分の世界を広げます。異なる他者との相互理解を深めるための時間です。

《 その他の授業 》

ことば(日本語)

自然の営み

からだの時間

アートタイム

アクト&ドラマ

英会話 (英語というツールでコミュニケーションの幅を広げます。)

スコーレタイム(話し合いで生徒たちが授業内容を決め、共に学ぶ時間です。)

シンカソング

シンカ会議

※ シンカとは沖縄のことばで「仲間」という意味。

高等専修学校
高等部

点数では評価できない 学びを仲間たちとつくる



大学入学
資格付与
指定校

高等学校等
就学支援金
制度対象校

高校等に通う授業料を国が支援する制度です。
世帯所得により支給の有無や金額が異なります。

教室は教員が知識や技術を伝達するためにあるものではありません。その場に参加しなければ手に入れることが出来ない体験としての学びをつくる場でなければなりません。生徒同士がお互いを支え合い、ともに成長するためにあるのです。生徒一人ひとりが授業を、あるいは学校そのものを「思索と表現と交流の場」としてつくることを通し、互いに自分を創ります。



平和学講座

生活の中に潜む差別構造や抑圧構造に気づく感覚を育てましょう。自分が出来ることをするのが平和への一歩です。



じんぶん講座

珊瑚舎スコーレの教育の考え方にさまざまな切り口からアプローチする「おもしろ哲学講座」です。



アジア講座

人を知ることは大切なことです。東アジアや東南アジアを切り口に「お隣の国と地域の人々」に近づきます。



文章講座

「自分のことばで自分にしか書けないことを書く」ことが目標です。鑑賞と創作と表現の時間です。

《 その他の授業 》

ことば(英語)

理数講座

自然講座

からだの時間

アクト&ドラマ

英会話 (英語というツールでコミュニケーションの幅を広げます。)

アートタイム

シンカソング

シンカ会議

※ シンカとは沖縄のことばで「仲間」という意味。

高等部

沖縄を学ぶ

沖縄は日本の一地方ではありません。日本列島の南端に位置し、南と西に開かれたもう一つの中心の地と言えます。500年間で培った琉球文化は地球の宝と言っても過言ではありません。珊瑚舎スコーレは沖縄の文化伝統を等身大の努力で生徒たちと受け継ぎたいと思います。



紅型講座

紅型とは沖縄を代表する伝統的な染色技法の一つ。思索し、創造し、表現する営みは人間に固有のものです。森羅万象をモチーフとして一枚の布に自分の形を表現します。



焼物講座

沖縄のことばで焼物のことを「やちむん」と言います。自分の掌の中から形を生み出すために道具を使いこなすことは貴重な自己対話の時間となります。



沖縄講座(自然)

琉球列島の島々は固有の生物相と顕著な生物多様性で知られています。その固有な自然と人との関わりが危機的な状況にあることも含めてフィールドワーク等を通して学びます。



琉球・沖縄史

琉球列島は固有な文化と歴史をもつ、類まれな島嶼地域です。このような一つの中心地としての琉球・沖縄の歴史から、現代社会を考えます。



沖縄講座(芸能)

島唄にうたわれている世界を読み込み、歌い込みながら沖縄の歴史、文化、自然、社会にアプローチしていきます。唄・三線・踊り・組踊の世界に触れることで沖縄への認識を深めていきます。



沖縄講座(文化・民俗)

沖縄は琉球王国としての500年近くの歴史があります。作り出した文化・民俗は、独自の輝きを放つ島嶼文化を形成しました。ユネスコは世界文化遺産に指定しています。沖縄の文化や民俗を学ぶことは現代を生きる私たちに多くのことを示唆してくれます。



慰霊の日特別授業

(キッズスコーレ・初等部・中等部・高等部・夜間中学校 合同授業)

沖縄戦で犠牲になった人たちに祈りをささげる日です。珊瑚舎スコーレは毎年、フィールドワークや講演会を通して、この一年間、自分自身がどう平和と向かい合ってきたかを立ち止まって考えるための日としています。

毎年
6月23日

はじ とき はじ
始める時が始まりです。
まな よろこ きざ とけい うご
学ぶ喜びを刻む時計を動かしましょう！



ねん がつ ぜんこく はつ
2024年4月に全国で初の
しりつ やかんちゅうがっこう
私立の夜間中学校として
みと
認められました！

がくひ むりょう
学費は無料です

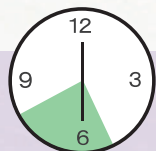
おきなわせんしゅうけつ ぜんご がくれいき むか こんらん ひんこん がっこう かよ
沖縄戦終結の前後に学齢期を迎え、混乱と貧困のため学校に通うことが
できなかつた義務教育未修了者はかなりの数にのぼると言われています。さ
まざまな理由から憲法で保障されている学ぶ権利を保障されなかつた方々、
がくれいき す かたち せいかつ げんざい こうがくしん つづ まな
学齢期を過ぎ、それぞれの形で生活しながら現在も向学心をもち続け、学ぶ
ばもと かたがた いっしょ がっこう おも ひと はじ とき
場を求めている方々と一緒に「学校をつくろう！」と思います。人が始める時
はじ まな よろこ きざ とけい うご はじ
がものごとの始まりです。学ぶ喜びを刻む時計を動かし始めませんか？

ねんれい じょうげん
年齢の上限はありません

ぜんきょうか き そ はじ
全教科基礎から始めます！

げつ きんようび
月～金曜日

にち
1日4コマ 17:15 ～ 20:30



そつぎょう ちゅうがく そつぎょうしょうしょ
卒業すると中学の卒業証書が
うけ と
受け取れます！



ハウスマーティング

みんなが暮らしやすい生活空間を作るための「ハウスマーティング」が週1回あります。少人数で作る生活を通して自立心と協同性を身につけてほしいと願っています。自立とは日常生活の様々なことを他者との関わりの中で考え、動くことであり、それは協同性を手に入れることでもあります。

保護者あるいは保証人の自宅からの通学が困難な高等部の生徒は「がじゅまるハウス」を利用できます。「がじゅまるハウス」は珊瑚舎スコーレの生徒たちが作るシェアハウスです。自分で身の回りのこと、例えば掃除、洗濯や後片付け、食事の準備・片付けなどができ、快適で清潔な住空間をみんなと協力して作ることが利用の条件です。寮ではないので寮監はいませんが、生徒の生活をサポートし、アドバイスするハウススタッフが一緒に生活します。

がじゅまるハウス



猫がいっぱい！海が近い！シャワーの水圧が良い！友達と一緒に住める！自分で自分の時間をつくり、料理や洗濯、掃除をする。暮らしとは何かを学びます。コミュニティをつくることや一人暮らしの練習にもなります。

ほっしー

珊瑚舎スコーレ理事長、星野人史。
1948年 東京都生まれ。
みんなから「ほっしー」と呼ばれています。
「ことば・日本語(国語)」「じんぶん講座」などの授業を担当しています。どんな人なのか生徒たちに聞いてみたら…

2015年 琉球新報活動賞 教育活動部門
2018年 沖縄タイムス賞 社会活動部門

でっかい
少年！

何とも言い
表わせない人(笑)

やんちゃな
大人！

宇宙人
っぽい！

感性全開



学びのパートナー

初等部 中等部 高等部の合同授業

異年齢で構成するクラスでは、一人ひとりの気持ちを大切にする自由で友好的な学びのパートナーを目指します。



生徒がつくる授業

毎年生徒が授業を企画し、学年末の学習発表会で発表します。テーマ決めから授業内容の評価を求めるところまで、全て生徒たち自身によるもの。自分たちの手による「授業づくり」は、まさに授業を通して「自分を創る」力を育む大きな場となっています。

過去の授業

- 原発と食肉
 - 魅力たっぷりの毒
 - 備瀬の海とくらし ～みる・きく・あるく～
 - わかる人たち ～民族～
 - 相対性理論
- etc..

アクト & ドラマ

今の自分とは別の自分を様々な方法と形でみんなと関わりながら演じることは自分の世界を広げ、感性や思考力を磨きます。5年に一度、キッズスコレ、初等部、中等部、高等部、夜間中学校合同のオリジナルミュージカルを上演します。



シンカソング

みんなでオリジナルソングをつくり、歌う時間です。コーラスをいろいろな形で楽しむことを大切にします。



シンカ会議

シンカ会議は話し合いの時間です。授業や行事、学校生活などさまざまなテーマが取り上げられます。



ハーリー（爬竜船）

航海の安全や豊漁を祈願し、サバニと呼ばれる漁船で競漕を行う沖縄の伝統行事です。地元の大会に参加するために毎年5月ごろから練習を行います。櫂（かい）をそろえることで船は強く、美しく前進します。

年に一度の行事



生徒の声

「テーマにそって話し合いをする授業ではあるけど「話して結論を出す」ことが全てじゃない。例えばよく発言する生徒だけで話し合いを進めるのって「シンカ会議じゃないよね」ってなったことがあった。意見を求めてもうまく言葉にできず、黙ってしまう人もいるから、話し合いのやり方を変えてみよう、試しに少人数のグループに分かれて話し合いをしてみた。「相手の意見を聞く工夫」をし、「相手に寄り添う」話し合いにした。逆にみんなが意見をたくさん言ってまとまらない時は「みんなの意見をあわせていく」ための話し合いになったり。「話し合う」という言葉ひとつでも、いろんなやり方や考え方があり、発見が多い！

生徒による授業紹介

珊瑚舎スコールにはどんな授業があるのか、生徒に聞いてみました！



アートタイム(キッズスコール)

これをつくらなきゃいけないって決まらなくて、自分でそのとき思いついたものをつくれるから好き。フェイスペイントはお化粧みたいでおもしろかったし、エミューを見に行ったらそこで絵を描いたのもたのしかった。



うちなーぐち(初等部)

うちなーぐちは難しくておもしろい。11月が「しむち」12月が「しわーし」って、日本語と全然ちがってわからなかった。知らないことばを知っているんなことばを覚えていくのがすごく楽しくて、いつかしゃべれるようになりたいな。



スコールタイム(中等部)

クラスの問題ややりたいことを考える時間で、今は中等部で行く旅行について話し合ってる。多数決で簡単に決めずに少数派の意見も尊重して、みんなが納得できるようにしている。相手の話をもっと受けとめ合いたいと思う。



文章講座(高等部)

講師が「“うつくしい”とは」と黒板に書いて、みんなはどういう思いを持っているのか尋ねた。生徒一人ひとりが違う意見を言って、正解がないのがおもしろかった。そういう時間って贅沢だと思う。たくさん書くし、書いた文章をみんなが直してくれるから、書くことが好きになった。



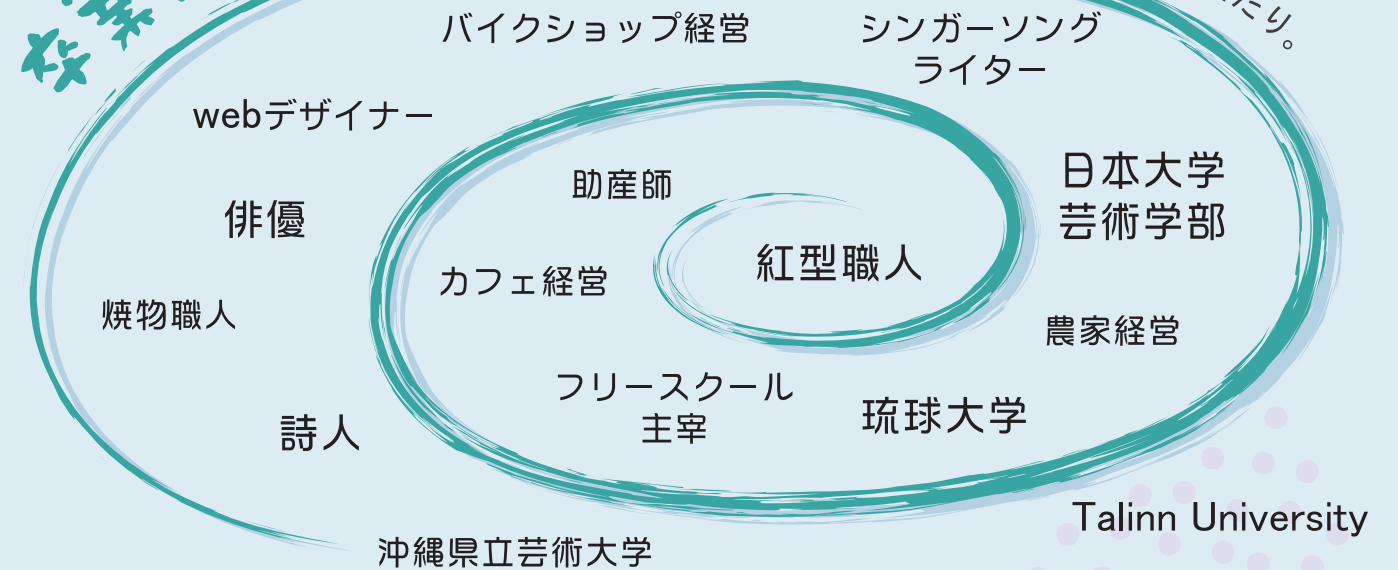
夜間中学校

自分自身が勉強したいと思い、人生の楽しみのひとつとして学校に来ています。最初のころは作文が恐怖でしたが、家でも新聞を読んで勉強して今は苦手ではないです。社会の授業では生徒が講師に代わることもあり、お互いに勉強しています。



卒業生の進路

進学だけじゃない！自営業を始めたり、旅に出たり。



卒業生の「今」

卒業後はどんなことをしているの？



高等部卒業生 広田伸子さん

Q 今は何をしているの？

A 新潟県十日町市でtani house itayaという宿泊施設を営んでいます。珊瑚舎スコール卒業後は、海外の大学へ進学し、国際協力のお仕事を長くしていました。現場とは定められた期間以上に関わる事が難しい仕事なので、長期的に繋がる拠点が欲しいと思うようになりました。そして現在、自身のホームタウンでもある十日町を中心に活動をしています。

Q 今やりたいことは？

A 拠点作りが落ち着いたら、色んな国に出向き心躍る何かが見たいと思っています。

Q 今は何をしているの？

A 岐阜県岐阜市を拠点にKMCというバイク屋を営んでいます。世界の色々な場所に出向き、自分の目で選んだバイクを日本の人達に手渡しています。珊瑚舎スコールに在学中からバイクが好きでこの道を選びました。

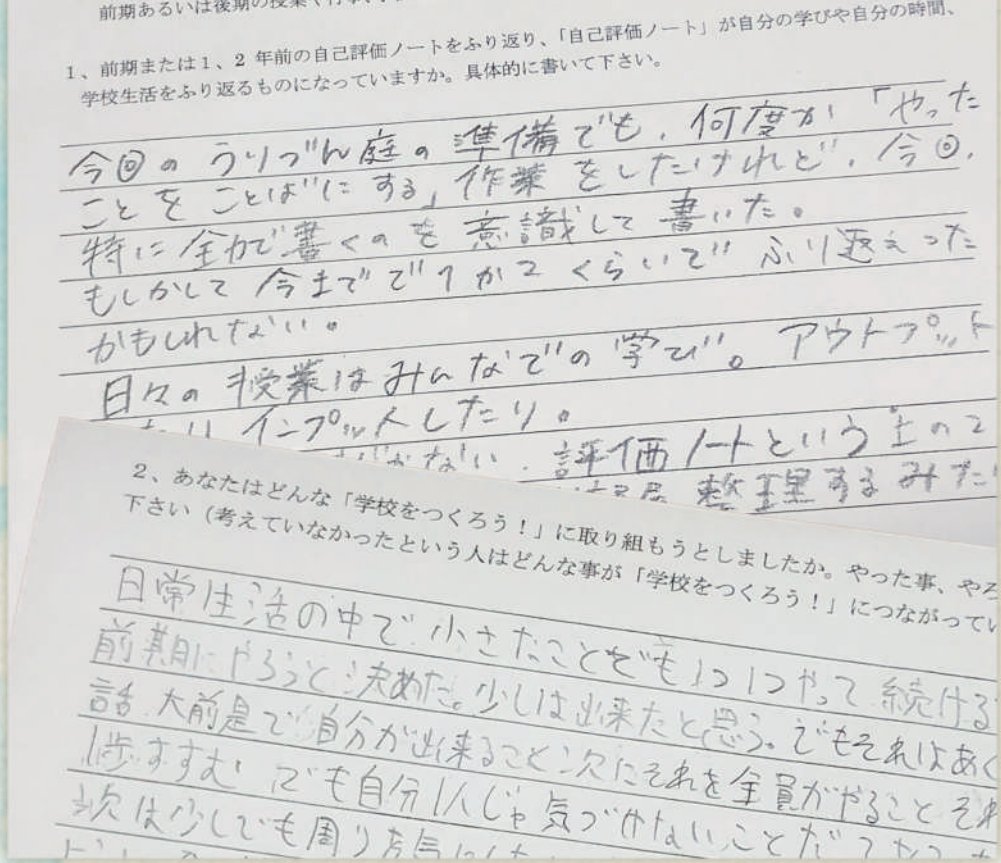
Q 今やりたいことは？

A 世界でまだ行ったことのない場所へ行きたい。仕事に関わらず、世界を旅するのは楽しい。



高等部卒業生 小林啓友さん

珊瑚舎の時間



その1

自己評価ノート

児童・生徒は自身の学びを確認するために、前期・後期それぞれ自己評価ノートを書きます。点数や○△×などではなく、文章を書くことによって自分を振り返り、これまでの自分、これからの自分を見つめます。文章を書くということは自分を仲立ちにした社会との対話、逆に言えば社会を仲立ちにした自分との対話です。人を育てる力を持っています。

その2

学びの同行者

珊瑚舎スコールは「思索と表現と交流の場」として学校を捉えています。児童・生徒が自分の力で自分をゆっくりと育てるための手助けをする場です。お互いを認め合い、お互いの力を引き出しながら喜怒哀楽を分かち合います。



基本的に「やってみたい」を尊重してくれる学校。でも、もちろん何でも好き勝手にやっていいわけではないよ。ある程度の枠組みというか「ルール」のようなものがあって、その中で僕たちは好きなように学校生活を歩んでいくのだけど、ルールから外れそうになったときは、ルール内に連れ戻すのではなく、「ルールを増設する方が良いのか、または今までのルールでは何が足りなかったのか」をみんなで話し合うんだ。みんなで話し合って決めた事や、やり方なら納得して守れるんだよね。

その3

卒業制作は「自画像」(高等部)

自画像というと自分の顔を描くことに思えますが、珊瑚舎スコールでは文章による『自画像』を卒業制作としています。自分という存在に一つの輪郭を与える営みです。



うすまきが現れる。
絵のパターン、ノートの落書き、体の内側の…言葉に昇華しきれないモノたちが蠢きまわる。次から次へと湧いてくる気持ちと思いと、やめられないこと。
それを外へ掻き出すことも同じくやめられない。表現に中毒しているのだと思う。
その中で、やっぱりどうしても言葉より絵を描くことが好き。珊瑚舎の色々な授業やその他の学びを通して、言葉だけが世界じゃないと思った。
文章を書くのは好きだし楽しいことだけど、速度の問題がある。時間をいつまでもかけていたい、考えがまとまらない。脳みそを直接紙にぶつけたら思考がプリントできないのか。言葉は相手に一番明確に伝わる媒体だから、抽出に時間をかけたい。これが本当に自分の出したい言葉なのかと探りたいと思ってしまう。だから進まない。
絵を描く時は、そこまで悩まない。考えがうすまきく形をとって現れてくる。そうしている間、自分はいると思える。
自己が体に定着しきれていない。アイデンティティとして自分がわからないのではなく、単純にK.M(※作者名前)という姿形を纏っている、中身、スクリーンを通して外を見ている中身が何者なのか理解できない時がある。喋る相手は記憶の中に認識できるし、話している内容も理解できるのに、いまここで目の前の人は誰でそれと喋ってる自分がなんなのか、という感覚。体がある種の殻となって、その奥の方へ意識だけが引っ込んでゆく。自分とは何？ーわからない。
時間はどんどん流れていって、やっぱりこうしておけば良かった、なぜああできなかったという気持ちで覆い尽くされる。不可逆的に進行させられ続ける。まだ中途半端なのに。立ち返りたい。でも作品はいくらでも練り直せる、推敲できる。
活字の文章の様に整っていることが美しさなら、蓋を開けた体の中身は醜いの部類に入る。学びも、思いも、いいも悪いも全てまきこんでぐるぐるしている。そのままがいい、すっきり整頓させて、どこかへ流したくない。いつまでも貪欲に思いを巡らせられるように。自分がどんな方向へ進んで行くか考える時、自画像を書く。自画像を推敲し続ける。

卒業生 K・Mさん 自画像



鏡を見つめてる、けどそこは、真っ暗で何も見えない。電気が付いてなくてうっすらと見える自分の形。中学の頃から自分が見えなくなった、いや多分見えなくなった、自分を押し殺した。そうしてみんなの思うK.O(※作者名前)を生きてきた。弱い自分を隠して誰にも見られぬ様に。だから自分がわからない、成長を感じられない、自分を文章化出来ない。その時どれだけ文章を書けても次見た時には自分の文章じゃない。今の瞬間しか生きれない短命の文だけが生まれてくる。その時の今の自分から出てくる言葉は確かに自分だったんだろう。ただ日にちを空けると自分じゃなくなってくる、まるで赤の他人が自分を書いている様で気持ちが悪い。紙の上でしか自分を表現できないのならば自分は、一生出来ないのだろう。ただ今こう思ってやって書いている自分も明日には自分ではなくなる。そんな未来が電気を消して今の自分を何も見えないようにさせている。未来は不自由に自分を縛る。だから自分は、先を見ずに足元を見て歩く。

卒業生 K・Oさん 自画像

教科書から学べないことが貝殻から学べる、風から学べる、近所のおじいさんから学べる。文字から学べないことが声から学べる、顔から学べる、音楽から学べる。人間から学べないことが魚から学べる、花から学べる。そして学ぶ必要のないときは、ただ生きていることを穏やかに楽しむことができる。珊瑚舎スコールで、私はそんなことを学びました。

谷川俊太郎

ようこそ!「山がんまり」へ!

「がんまり」は「いたずら」という意味の沖縄のことばです。

「山がんまり」は、2005年5月から珊瑚舎スコーレの生徒たちが山を開墾・整地し、たくさんの人たちの協力によって作られた約3,000㎡ほどの校外施設です。

沖縄の人々によって長い間受け継がれてきた離島の自然環境を利用する生活の知恵と術を珊瑚舎スコーレでは「島型循環エコシステム」と呼んでいます。

山がんまりはその再現の場です。電気、ガス、水道はありません。

毎週金曜日と前期・後期の始まりと終わりの3日間ずつ、初等部・中等部・

高等部の生徒たちは島型循環エコシステムを体験しながら

「山がんまり」を作り続けています。



年間行事

入学を祝う会 (4月)



5月

6月

ハーリー (6月)



慰霊の日特別授業 (6/23)



自己評価ノート記入期間 (8月・3月)



7月

8月

9月

遠足 (4~5月)



とうんじーあしび (12月)

冬至を祝う珊瑚舎スコーレ
年末パーティー。学校で習
ったことはやってはいけな
い、ちょっと変わった学校行
事です。一年の終わりに皆
で楽しむ時間です。



11月

12月

10月

ワークキャンプ (9~10月)



旅の報告会 (9月)



春の学校 うりづん庭 (3月)
後期学習発表会・卒業を祝う会



「うりづん」とは冬が終わり
大地に潤いが増してくる
時期(2~4月)のことを言い
ます。庭(な)は広場。皆
が集う場のことです。うりづ
ん庭では「後期学習発表
会」「生徒がつくる授業」「ま
れ人講座」などと共に「卒業
を祝う会」を行います。

1月

2月

3月

畑の卒業を祝う会 (3月)

一年間の作業収めの日。卒業生は自画像
を朗読し、みんなで卒業を認め合います。



新春朗読バトル (1月)



前期学習発表会
「まにまに祭」(8月)

「まにまに祭」には、『人と人の間』
『人と物(教材)の間』で営まれた
学びを『前期と後期の間』に発表する
という意味をこめています。各授業で
学んだことを舞台上で発表したり、制作
した作品を展示します。そして夏休み
がスタート!

